

## 「4. 提出書類」の記載要領

### 1. 全体について

#### 1) フォント・ポイント

様式 2-A、様式 3、様式 4 については、フォントは和文には MS 明朝、英数字には Times New Roman を使用し、ポイントは 11 ポイントで記入してください。

#### 2) 電子ファイル

提出書類の(2)～(4)につきましては、紙での提出の他、電子ファイルを CD-R または USB に保存してご提出ください。

提出書類の(2)～③ 主要論文につきましては、PDF ファイルがある場合のみ、電子ファイルもご提出ください。

### 2. 「(2) 研究業績」について (様式 2-A)

#### 1) 「①研究業績一覧」の内容欄は、以下の項目に分けて記載してください (記載例参照)。

- A. 著 書 [著者名. 題名. 書籍名 (編集者名). 発行社名. 発行地. 年 : 頁]
- B. 原 著 [著者名. 題名. 誌名. 年 ; 巻 (号) : 頁. DOI ナンバー]
- C. 総 説 [著者名. 誌名. 年 ; 巻 (号) : 頁. DOI ナンバー]
- D. 症例報告 [著者名. 題名. 誌名. 年 ; 巻 (号) : 頁. DOI ナンバー]
- E. その他の出版物 [著者名. 題名. 出版物名. 年]
- F. 学会発表 (国際) [発表者名. 題名. 会名 (場所 : 年)]
- G. 学会発表 (国内) [発表者名. 題名. 会名 (場所 : 年)]
- H. 研 究 費 [氏名 (代表・分担の別). 研究題目. 研究種目. 期間. 助成金額 (間接経費含む)]
- I. 特許 [発明者. 発明の名称. 出願番号・特許番号のどちらか. 年. 対象国]

#### 2) 「①研究業績一覧」の記載法

- ・ 共著 (共同発表) の場合は全著者名 (全発表者名) を記載し、本人名にアンダーラインを引くこと。
- ・ 細項目ごとに新しいものから順に記入し項番に一連番号を付すこと。
- ・ A. ~ E. について、印刷中のものは掲載証明書を添付すること。
- ・ B. ~ D. について、DOI があるものは記載すること。
- ・ B. について、主要論文 5 編 ((2)～③) は一連番号を「○」で囲むこと。
- ・ Letter to the editor 及びプロシーディングス (学会抄録) を記載する場合は査読のあるもののみとし、「E. その他の出版物」に記入すること。
- ・ F および G. について、それぞれ特別講演、教育講演、シンポジウム、パネル、ワークショップ、一般演題等に分けて記載すること。なお、国内学会の一般演題は 2019 年 4 月～2024 年 3 月までに全国レベルの学会において発表されたものとする。
- ・ Impact Factor は、Clarivate Analytics 社 Journal Citation Reports (JCR) (<https://jcr.clarivate.com/>) 記載の 2023 年の “Journal Impact Factor” の数値を記入すること。

- ・ JCR 2023 年度版において誌名が変更になっている雑誌は、( ) 内に新しい誌名を記入すること。
- ・ H について、分担者の場合は、代表者の採択金額を記載すること。

#### 研究業績一覧記載例

| 項目        | 細項目      | 項番<br>(主要論文に○) | 内 容  | Corresponding author の論文に○ | Impact Factor |
|-----------|----------|----------------|--|----------------------------|---------------|
| 著書        | 和文       | 1              | 医大太郎, 大阪大助. 指向進化による酵素の基質特異性の改変. タンパク質の分子設計 (高槻花子.編). 共立出版. 東京. 2011;160-70.  |                            |               |
| 原著        | 欧文       | 1              | Osaka D, Idai T. Aire controls the differentiation program of thymic epithelial cells in the medulla for the establishment of self-tolerance. J Exp Med. 2018;205(12):2827-38. doi: 10.1084/jem.20080046 | ○                          | ●●●●●         |
|           | 欧文       | ②              | Idai T, Osaka D, Takatsuki H. A local GABAergic system within rat trigeminal ganglion cells. Eur J Neurosci.2006;23(3):745-57. doi:10.1111/j.1460-9568.2016.04602.x                                      |                            | ●●●●          |
|           | 和文       | 1              | 医大太郎, 高槻太郎. 肝切除術における腹腔ドレーン留置が腹腔内感染に与える影響. 日外感染症会誌. 2013;10(1):33-9.  |                            |               |
| 総説        | 欧文       | 1              | Idai T, Osaka D, Takatsuki H. GABA and GABA receptors in the central nervous system and other organs. Int Rev Cytol (Int Rev Cell Mol Biol) . 2012;213:1-47. doi: 10.1016/S0074-7696(02)13011-7          |                            | ●●●●          |
| 症例報告      | 和文       | 1              | 医大太郎, 高槻次郎. 長期間のステロイドホルモン剤の内服にて肝逸脱酵素が正常化していたにも関わらず, HCC を生じた高齢男性 AIH の 1 例. 肝臓. 2013;54(9):620-7.  |                            |               |
| その他の出版物   | ビデオ      | 1              | 医大太郎, 高槻次郎. 安全な内視鏡鼻内手術の実際. 大阪ビデオ出版. 2009.  |                            |               |
| 学会発表 (国際) | シンポジウム   | 1              | Idai T, Osaka D. Quantitative histological study of goblet cell in rat septum. The 4th Osaka International Symposium. (Osaka: 2017)  |                            |               |
| 学会発表 (国内) | 一般演題     | 1              | 大阪大助, 医大太郎. Delta-like3 のメチル化異常と肝臓癌の発育・進展. 第 118 回日本解剖学会総会 (高松: 2016)  |                            |               |
| 研究費       | 文科省科学研究費 | 1              | 医大太郎 (代表者). ピリドキサール・キノン酵素反応の多元的エネルギー解析. 基盤研究 (C) . 2019-2021 年度. 3700 千円   |                            |               |
| 特許        |          | 1              | 医大太郎, 医大花子. 組成物. 特許第 2687542 号. 1998. 日本   |                            |               |

### 3. 「(3) 教育業績一覧」について (様式 3)

#### 1) 「1. 看護学部看護学科における過去 5 年間の教育歴」

2019 年 4 月～2024 年 3 月について、大学名・学部名など具体的に記載してください。

#### 2) 「2. 看護学研究科における過去 5 年間の教育歴」

2019 年 4 月～2024 年 3 月について、大学名・学部名など具体的に記載してください。

